



こくろうよなご

第2号

2025年9月10日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！



●三浦代議員（浜田）
乗組の準備をして次の乗務点呼まで10分しかない。タブレットが個人配布され、それを使って規則の変更など確認することになっているが、時間が足りず、未確認のまま乗務し後で確認するような状況になっている。始業時間の30〜40分前にきて、早めに点呼を受ける。訓練と言っても各自が動画を

●山田支部代表（鳥取）
乗務員でハーフ勤務の人は、タブレットの確認項目が多くなり、時間内にはとても対応できない。特急ワンマン運転、列車遅延時指令より、「乗客の行き先を調べる」などの指示が出る。客室に入るとインバウンドの対応があったりと時間がかかり、更なる列車遅延にもつながる。災害で「おき号」を米子から先を運転休止にする時も運転士が対応、特急のワンマン運転は見切り発車であり

●木村支部代表（浜田）
美祢線がBRT化されると報道されているが、西日本本部で情報

●藤江職協代表（米子）
運輸協議会は人数はそれなりにいるが、活動が出来ていない。今は、駅関係の問題点など集約して地本にもあげていきたい。シニア社員の精励手当20万円は低すぎる。シニアの労働条件を良くしてほしい。指令所では年休が全くでない。法令上必要な五日間ぐらいしか年休消化出来ないのでは



●松村代議員（浜田）
メンテックに出向中、毎日暑くて大変。熱中症対策で水が配られるが水ばかり飲んでいられない。各自がペットボトルを購入し対応している。職場は人手不足と高齢化が進む。車両の外洗いは体力もかなり使う。水分を取りながら仕事をするよう

●北村職協代表（鳥取）
社会人採用者が現場に配属されているが、業務的に大変な実態がある。教育の負担も大きく、現場任せでなく教育担当者の配置が必要だ。1年目の社員は要員にカウントしないと言っているが、1年間は、とても1人前にはならない。シニア社員2年目だが、夜勤が月に7〜8回もあり、とても長く働き続けられるような状況にはない。グループ会社も人材不足で仕事がきつくなっている。会社の言うように「グループで協力して」という状況では全くない。グループ会社における働き続けられる環境整備も必要だと考えている。

●西日本本部答弁
美祢線のBRT化の

●業務部長答弁
JRとグループ会社の関係については、安全にも絡んでくるので、組合としても対応していきたい。

●熱中症対策について
は、現場からも声を挙げて頂きたい。特急のワンマン化・タブレットによる確認の時間が足りない問題など、8月29日の団体交渉でしっかりと訴えて行きたい。会社施策についても、組合への説明より噂話の方が早いようではない。前広な説明を求めている。

構成員発言要旨

8月23日開催の「第78回定期地方大会」における代議員及び構成員の発言、業務・西日本本部の答弁、書記長集約等を掲載しています。討論では熱中症対策、ワンマン化を含む乗務員の職場環境の悪化、社会人採用者への教育の在り方、シニア社員の待遇改善、ローカル線問題、今後の組織の展望についてなど、様々な課題が提起をされていきました。大会で頂いたご意見については、当面する団体交渉や各種活動にしっかりと反映させて行く事とします。

第78回定期地方大会発言編

行き過ぎた効率化に 喝！



廃止するべき。

がないか。BRT化について、国労としてどう対応していくのか。駅舎の改修などが進められている。老朽対応として仕方ない面もあるとは思いますが、現場の声を全く聞かずに進めるのはどうか。現場の意見を聞いて対応してもらいたい。

運動の方向性を考えることも必要だ。2分會化に伴い事務所の便宜供与が解消されるが、事務所が無いと活動にも支障が出る。何とかならないか。

大会に寄せられたメッセージ

立憲民主党 参議院議員 辻元 清美 様
立憲民主党 衆議院議員 亀井 亜紀子 様
社会民主党鳥取県連合 足田 芳憲 様
社会民主党島根県連合 芦原 芳江 様
日本共産党鳥取県委員会 岩永 尚之 様
日本共産党島根県委員会 上代 善雄 様
鳥取県議会議員 浜田 妙子 様
鳥取県議会議員 村上 泰二郎 様
島根県議会議員 角 ともこ 様
島根県議会議員 陶山 隆 様
米子市議会議員 伊藤 ひろえ 様
松江市議会議員 つもり 良治 様
出雲市議会議員 三島 好弘 様
雲南市議会議員 福間 守 様
江津市議会議員 植田 好雄 様
益田市議会議員 福原 宗男 様
南部町議会議員 長東 博信 様
伯耆町議会議員 大森 英一 様
フォーラムしまね 内田 智己 様
フォーラムとっとり 三浦 敏樹 様
私鉄中国日ノ丸自動車 下村 浩司 様
私鉄中国一畑電鉄 乃木 映行 様
私鉄中国石見交通 吉本 徳生 様
私鉄バス・ハイタク 吉本 徳生 様
国労北陸地方本部 藤野 能章 様
国労近畿地方本部 山本 泰光 様
国労岡山地方本部 小林 靖浩 様
国労広島地方本部 佐々木 隆一 様

地方本部答弁

出向先職場で問題があれば、会社を通して関連会社に話が出来るので地方本部まで意見を頂きたい。
乗務員の勤務制度について、会社と見解に相違がある。労働条件は低下するばかりなので、本交渉でも訴

話は、何かわかれば伝えたい。大単位化が進み、現場の声が届かなくなっている。しっかりと現場の声を聴くよう求めている。鉄道固有の技術を支えるシニア社員の待遇改善にもしっかりと取り組んでいきたい。熱中症対策については、グループ全体で取り組み、グループ全体で取り組むよう求めている。

えて行きたい。社会人採用者の離職が多いと聞いている。採用前に思い描いている仕事とのミスマッチも考えられ、採用時の丁寧な説明を求めている。東日本などからはBRT化しても利用は増えないと言われている。交通手段を変え、自治体負担をするようになっただけでは根本的な解決にならない。西日本本部としてもタイミングを見ながら会社と会話はして行きたい。地域の公共交通をどうしていくのか、もっと議論が必要だ。
支部の廃止に伴う事務所の便宜供与の解消の件については、今後の扱いを会社と協議中であり、分り次第各機関にお知らせする。

書記長集約(要旨)

6名の構成員から発言を頂いた。福知山線列車事故から20年、伯備線触車事故から19年が経過した。JR西日本グループの「鉄道安全考動計画2027」では、「安全最優先の風土」を構築する。とあるが、一方では、生産年齢人口の減少により今後ますます労働力の確保が困難となることを理由に、各システムで効率化を推し進めている。その結果、日々の仕事をこなすのに一杯の職場環境となっている。
現場で働く労働者の実態から「本場に安全で安心な業務執行がなされているのか」「しっかりと点検を行い声を挙

世界一保護なしの日本の農業

8月30日、「鳥取県夏季農業講座」に参加、東京大学鈴木講師が「日本の食と農を守る」とのテーマで「令和の米騒動」の原因など講演されました。話は戦後まで戻りますが、戦争に勝利をしたアメリカの日本占領政策の第一に、日本の農業を弱体化し食料自給率を低め、①日本を米国の余剰生産物の処分場とすること②それによって日本を支配し③米国に刃向かえるような強国にしないことがあり、日本人が米の代わりに米国産小麦に依存するような洗脳政策が取られたとのことでした。
その結果、食料自給率は著しく低下、2020年には約37%となっています。著名な作家の「食料を自給できない人たちは奴隷である」の言葉を引用し、「日本は独立国と言えるのか」「今こそ、総力で食料を増産すべき時」と言われていました。
米国から沢山の食料が輸入されていますが、米国では口にしないような農薬の入ったものが日本で販売されているという怖い話もありました。そして、農林水産省の予算は大幅に削減、農家の減少、高齢化に繋がっているそうです。世界一過保護と言われる日本の農家ですが、本当は世界一保護なしで頑張ってきたのが日本の農業であると言われていました。

取・島根両県の沿線自治体と「公共交通を取り巻く現状や課題・要望」について現在までに17の市町村と意見交換を行なってきた。木次線利用促進行動についても、継続していきたいと考えている。
米子地本では、4月にJR採用として初めての国労加入があった。結果をすぐに求めるのではなく、共に働きやすい職場にしていく行動を継続していくことが必要だ。「TUNAG」を活用して全組合員に情報共有が出来る体制を確立する。
7月の参議院選挙では、自民・公明両党は過半数の議席を維持できず、衆議院に続き少数与党となった。「石破下ろし」の動きもあり、今後は様々なシナ

リオが考えられるが、次期衆議院選挙では、立憲民主党を支持すると同時に、野党共闘の前進に向け奮闘して行く。また、10月19日投開票の浜田市議会議員選挙には、国労組議員選挙の「小川稔宏」氏が4期目の当選に向けて決意を新たにしている。働く者の声を議会へ届ける為にも、小川氏の必勝に向け奮闘しよう。



編集後記

「酷暑手当てでも貰わんといけませぬね」。先日、車両清掃に従事するグループ会社の方から、そう話しかけられた。この日は、くしくも名古屋の気温は40度越え、「生命に関わるほど危険な暑さ」であるとのこと。
コロナ以降、社会の変容といういい方をよく耳にするようになってきたが、気温の方もこれまでの常識では測れなくなっているようだ。
8月下旬より25年度の労働協約交渉が始まっている。激変する社会・環境に取り残される、これまでにないような高めの要求し会社と議論を重ねていきたい。